

令和 8 年 9 月 25 日

幕別町議会議長 寺林 俊幸 様

議会運営委員会委員長 小田 新紀

議員派遣結果報告書

令和 8 年 6 月 24 日に決定された議員派遣について、次のとおり報告する。
記

1 派 遣 名

北海道町村議会議員研修会及び先進地視察調査

2 目 的

議会活動に必要な知識の習得及び情報収集を行い、議会機能向上に資するため。

3 派遣場所

(1) 北海道町村議会議員研修会〔北海道町村議会議長会主催〕

札幌コンベンションセンター（札幌市白石区）

(2) 先進地視察調査

平取町

4 派遣期間

令和 8 年 7 月 2 日～3 日（2 日間）

5 派遣議員

委員長 小田 新紀 副委員長 野原 恵子

委 員 塚本 逸彦、内山美穂子、酒井はやみ、荒 貴賀、
岡本眞利子、田口 廣之

議 員 畠山 美和、山端 隆治、長谷 陽子、石川 康弘、
藤谷 謹至、藤原 孟

議 長 寺林 俊幸 副議長 中橋 友子

（以上16名）

（小島 智恵議員、谷口 和弥議員 2 名欠席）

6 派遣内容

(1) 北海道町村議会議員研修会（7 月 2 日）

・内 容 講演

・演 題 「地方議員への 12 の政策アイデアから人口維持を
目指す実践事例」

・講 師 関東学院大学法学部地域創生学科教授 牧瀬 稔 氏

・ 所 感 人口維持に向けた各地の実践事例や、地方議員が政策形成に関わる際の視点についての講演であった。

特に印象に残ったのは、人口減少対策を考えるうえで、単に「人口を増やしたい」「若者に来てほしい」といった大きな目標を掲げるだけではなく、誰に対して、何を、どのように届けるのかを明確にする必要があるという点である。講演では、ドラッカーなどのマーケティング思考にも触れながら、ターゲットを絞ることの重要性が説かれた。

行政施策は、ともすれば公平性を重視するあまり、対象が広くなりすぎ、結果として誰にも強く届かないものになりがちである。しかし、人口維持や地域活性化を本気で考えるのであれば、子育て世代といった大きな対象ではなく、より具体的に設定し、その人たちが何を求め、何に不安を感じ、どのような条件が整えば行動に移すのかを丁寧に考える必要があると感じた。

幕別町においても、人口減少や少子高齢化は避けて通れない課題である。これまでの施策を含めて、今後は「町として何をするか」だけではなく、「誰に届く政策なのか」「その人たちの行動変容につながるのか」という視点をより強く持つ必要がある。

議会としても、行政から示された施策の目的、対象、視点、効果の見込み、検証方法について問い直す役割が重要であるとあらためて感じた。

・ 演 題 「どうなる政治・経済

～日本再生のために何が必要か～」

・ 講 師 ジャーナリスト 須田 慎一郎 氏

・ 所 感 国政の動向、現政権の考え方、経済政策、国内外の政治情勢など、直近の状況を踏まえた講演があった。国の政治・経済の動きは、地方自治体にとっても無関係ではなく、物価高騰、財政運営、地域産業、福祉、子育て支援など、さまざまな分野に影響を及ぼすものである。講演を通じて、国の大きな政策動向を把握することの重要性をあらためて感じた。

各議員において、今現在で特に必要な情報を個々に学び資質向上につなげた。一方で、地方自治体は国の制度や財

源に依存するだけではなく、それぞれの地域の実情に応じて、どのように制度を活かし、どのように住民生活を守るかを主体的に考えなければならない。

今後の議会活動においても、国政・経済情勢を踏まえた広い視野を活かし、幕別町の将来に必要な政策提案につなげていきたい。

(2) 平取町（7月3日）

・視察概要 平取町立二風谷アイヌ文化博物館の取組について

・内 要 二風谷アイヌ文化博物館を中心に、アイヌ文化の保存・継承と、文化的景観を軸とした地域活性化施策について視察研修を行った。事前にお伝えしていた質問に対しての説明や、さらなる質疑応答を行った後、館内や関連施設を見学した。

・所 感 今回の視察で特に印象に残ったのは、アイヌ文化施設が単なる展示施設にとどまらず、地域の方々とともに運営し、まちづくりや地域の誇りの形成につなげていこうという姿勢であるという点である。博物館というと、資料を保存し、来館者に見てもらう場所という印象を持ちがちである。しかし、こちらの取り組みは、文化を「保存する」だけではなく、地域の中で「生きた文化」として継承し、次世代に伝えていくことを大切にしているように感じた。アイヌ文化の保存・継承においては、施設整備そのものも重要であるが、それ以上に、誰が関わり、どのように伝え、地域全体でどのように支えていくかが重要であると感じた。平取町では、行政としても各部署でアイヌ文化の保存・継承において継続的に取り組まれていることも印象的であった。

幕別町においても、アイヌ文化の保存・継承、そして地域資源を活かしたまちづくりは重要な課題である。アイヌ文化を一部の関係者だけのものとして捉えるのではなく、施設整備後に、どのような事業を展開し、誰が関わり、町民や子どもたちにどのように伝え、観光や交流、教育とどのように結びつけていくかが問われることになる。また、そのような施策の想いをどのように情報発信していくか、継続的に進めることも重要である。

今後、アイヌ文化の保存・継承をまちづくりの重要な柱

の一つとして捉え、施設整備にとどまらない継続的な取組につなげていけられるよう、議会としてもさらなる調査探求をしていく必要性があると感じた。

(1) 北海道町村議会議員研修会（7月2日）



▲ コンベンションセンター大ホール



▲ 幕別町議会研修会出席者



▲ 関東学院大学地域創生学科教授 牧瀬 稔 氏



▲ ジャーナリスト 須田 慎一郎 氏



(2) 平取町（7月3日）



▲先進地視察（平取町立二風谷アイヌ文化博物館）